

新 地場企業 群像

物流業の昭和陸運（福山市）を中核に、機械や衣料の製造販売イベント企画、映像制作など幅広い事業を傘下の12社が手掛ける。ここ数年で他社からの事業承継を進め、急成長を続けている。

後継者が不在の企業から打診を受ける事例がほとんどだ。今年1月には作業服販売のオキタセニイ（広島市西区）を子会社にした。グループにはカシユアル衣料と作業服のメーカーもあり、生産から販売まで一貫して手掛ける態勢になっ

SRホールディングス（福山市）

事業承継で急速多角化



グループ報の作成に向け、本社で打ち合わせをする傘下各社の従業員

《会社概要》本社は福山市引野町。1954年に中核の昭和陸運を創業。2017年に持ち株会社のSRホールディングスを設立した。グループ各社の20年度の売上高の合計は75億円。従業員は計320人。

た。グループ内で商品開発の協業も始まった。

昨年11月には板金加工や機械製造のシーケンス（福山市）をグループ化。

2019年に買収した商社と併せ、機械事業を強化する。今年3月にはイベント企画の子会社アイデアル（同）が、催しに使う機材のレンタル事業の譲渡を受けた。

業種を超えた事業拡大について、荒木栄作社長（46）

は「各社の個性が交わり、新たな発想につながる。多様性が利点になると語る。18年には既存の社屋の隣に新本社棟を建設し、グループ内の交流を進める。年一回発行する「グループ報」の編集は、会社の垣根を越えて共同で取り組む。

祖業の昭和陸運は荒木社長の父親が創業した。他の運送会社からの下請けが主だった業務を20年ほど前から徐々に拡大。他社のトラックを含めて空車を探し、依頼を断ることなく配送できる態勢をつくった。倉庫業や通関業にも乗り出し、多角化の地盤を築いた。

今後も物流拠点の新設や作業服店の新規出店を計画する。荒木社長は「多くの事業に関わりの深い物流業が核にあるのが強み。新しい価値観を提供できる企業体を目指す」と見据える。

（村上和生）